

## 伝え合う力の向上（言語活動の充実を通して）

【蓮田市教育委員会】

- 1 学校・学年・教科 小学校・全学年対象・全教科領域
- 2 ねらい 全教科領域の指導を通して、言語能力と言語に対する意識や関心を高め、伝え合う力の向上を図る。

### 3 取組内容

#### (1)教科等の学習指導での実践

##### 国語科での取組

- 読書指導の一環として、「蓮田お話の会」の協力をいただき読み聞かせや本の紹介を学期1回全クラスで実施してきた。児童はこの会を大変楽しみにしており、真剣にお話を聞いている。
- 「発表の仕方」「声のものさし」などの掲示物を使い、児童に発表の仕方や話の聞き方の指導を全学年の発達段階に応じて行ってきた。

##### 算数科での取組

- 少人数指導やTTでの学習形態を4年生以上、毎時間実施しており、児童一人一人の指導の充実を図っている。特に「練り上げ」の段階で児童同士の話合いの時間を確保し、思考力・判断力を高める言語活動の充実を図っている。



算数の練り上げ

##### 生活科での取組

- 見学するときのインタビューの仕方やまとめたことを発表するための原稿を書く活動を設定した。その原稿を元にペア学習やグループ学習で練習を行い、よりよいインタビューや発表ができるようにした。



生活科のペア学習

##### 体育科での取組

- 「作戦タイム」の場を設け、お互いに意見を出し、よりよい作戦が立てられるよう場を設定した。子どもたちは作戦板を使い、チームの良さを生かした作戦を立て、次のゲームに臨んでいた。



体育科の「作戦タイム」

##### 外国語活動

- 異年齢交流の機会を取り入れ、より相手意識を持ち、自分が伝えたいことを正確に伝えるというコミュニケーションの場を活動として設定した。

- (2)授業時間以外における実践  
業前時間の活用

#### ○国語タイムの実施

漢字の繰り返しや活用の練習、教科書視写の練習を通して、言語に関する基礎的・基本的な技能の習得をねらいとした。

#### ○音読集会の実施

全学年で家庭学習の一つとして「音読」を実施している。音読の題材は教科書の作品や教科書に出てくる人物の様々な作品、古典、漢詩などである。その音読練習の発表の場として毎学期1回「音読集会」を設定した。この集会を通して、多くの児童がしっかりとした声で音読できるようになってきた。また、動作化も取り入れることで児童に音読の楽しさを味わわせることもできた。



動作化も取り入れた音読発表

#### ○発表の場を多く設けた朝会及び集会

「お話朝会」や「生活目標朝会」では役割演技を取り入れたり、代表児童の考えを発表させたりした。高学年では話の内容を要約した文を書いたり、話の内容に対する自分の考えを書いたりする時間も設けた。

「児童集会」では集会委員会児童の司会進行で行われ、各種委員会の発表を行ってきた。これらの活動を通して児童は「人前で話す」場面を多く体験し、実践を通しながら場に応じた発表の仕方を学ぶことができた。



役割演技を取り入れたお話朝会

#### ○スピーチを取り入れた朝の会や帰りの会

どの学級も朝の会や帰りの会で「スピーチ」の時間を設定した。「よいところ発表」や「気になる新聞記事」などその日によって、または学級によってテーマはさまざまである。

#### 行事等での指導

「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」で「劇団えるむ」とのワークショップを設定した。この活動で、朗読の仕方や劇での表現方法を学んだ。高学年児童の有志15名が劇に参加し、演劇における発声方法や動きを学んだ。また、劇団員と一緒に舞台に立ち、演技をした。



ワークショップで練習する児童

## 4 成果と課題

教育に関する3つの達成目標の「規律ある態度」において「話を聞き発表する」に関する達成状況は全校平均が91.6%であった。これは、県平均値よりも7.75ポイント高い。また全学年で80%をこえ、5つの学年で90%以上の達成率である。しかし、児童一人一人に目をやると、「話を聞き発表する」を苦手とする児童もいる。今後はさらにこれらの活動を充実させながら、きめ細やかな指導をしていき、どの児童にも伝え合う力のさらなる向上を目指したい。